上田西高の教育

～新生～

夏休みＤプロジェクト部・JRC 部を中心に被災地岩手に出向きボランティア活動をしてきました

第 56 号　2012.3 発行

夢を育む学園に　理事長　水野一成　…2
サイパン修学旅行　２学年主任　関　信彦　…4
初卒業生　３年１組担任　阿部薫之　…6
震災ボランティア　Ｄプロジェクト.JRC 顧問　…8
女子バスケットボール部　顧問　阿部薫之…11
西高ホームページの取り組み　広報係　枝村健兒…12
進路実績　進路指導主任　森下　暁…15
編集後記　広報係…16

上田西高等学校

社会情勢に萎縮することなく
夢を育む学園に

理事長　水　野　一　成

長野県私学は大きな変動期を迎えている。少子化の波は既に押し寄せており、平成二十二年度から始まった「公立高校授業料無償化」は国の政策ではあるが、私学にとっては、いわば逆風と言わざるを得ない。そこへ東日本大震災である。千年に一度といわれる大地震と原発事故による放射能汚染が重なった。しかし社会がどういう状況であろうとも、一人ひとりの生徒の成長を考え、次代を担う人材育成を使命としてきた上田西高等学校は、困難な時代を切り開くエネルギーある若者を育て、今こそ社会のニーズに応えなければならない。

私は長年ＩＳＯ規格の運用にかかわってきた。ＩＳＯ規格とは世界共通の国際的な標準という意味である。ＩＳＯマネジメントシステムを使えば「世界中の誰もが該当規格の目的を達成できる」といわれている。人を育てる教育現場で国際規格を持ち出すのは、甚だ場違いと叱られるかもしれないが、「言い訳しない・妥協しない」自らの姿勢を保つためには、どんな場面でも応用できると考えている。対象が人かモノかの違いは非常に大きいが、ここでは国内で比較的よく使われている二種類のＩＳＯ規格を取り上げてみたい。

まず、環境ＩＳＯ（ISO14001 規格）とは、国際的な環境規格のことである。温暖化、オゾン層の破壊、エネルギー問題など、地球規模に広がってしまった環境問題への注目の高まりから生まれた仕組みである。ISO14001 に適合していると認定されると、国際的に「環境保全に貢献している事業所」いわば二十一世紀型事業所であるという評価を得ることができる。世界的に環境問題対策への関心が高まり、日本でも ISO14001 の認証取得に取り組む事業所、すでに取得済みの件数が急上昇している。大手中心だった認証取得が、自治体や中小企業にまで広がり、上田市は、平成十三年度に認可取得・運用を開始し評価を得ている。また学校現場でもこの認証取得校が増えつつある。

次に、品質ＩＳＯ（ISO9001 規格）とは、国際的な品質規格のことである。その目的は、単に『良い製品（サービス）を作ること』だけではなく、『よい製品（サービス）を作る（提供する）ためのシステムを管理すること』となる。つまり、ISO9001 とは、よい製品やサービスを提供することで、『顧客に満足してもらうこと』を目指す仕組みである。学校現場での顧客とは、生徒でありその保護者であるから、学校が提供する「教育活動」に生徒や保護者が満足しているか否かがとても重要なことになる。実は教育機関での認証取得も進んできている。

上田西高校の校舎・設備の見直しに際しては、少なからずこの仕組みを意識して最善を尽してきたつもりである。県下普通科最大級六万六千㎡校地を有し、しなの鉄道西上田駅より徒歩５分の地の利、新校舎建設や全館冷暖房完備、耐震対策済みの本校は、全国有数の教育環境であると自負している。我々はこの環境を最大限に活かし、今まで以上に魂を込めていかねばならない。幸い本校は熱心に教育に取り組んでおられる現場教職員に加え、サッカーの山本昌邦先生やシチズンシップ教育の小玉重夫東京大学教授の心強いサポートも得ている。さらなる充実を大いに期待するところである。

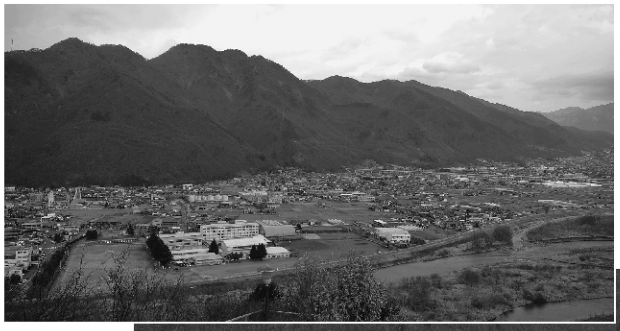
東日本大震災の時、誰もが言葉を失う被害状況にあって、東北新幹線はあの激しい揺れの中、一輌も脱線しなかったそうである。二十七本もの車両が乗客を乗せて高速で走っていたにもかかわら

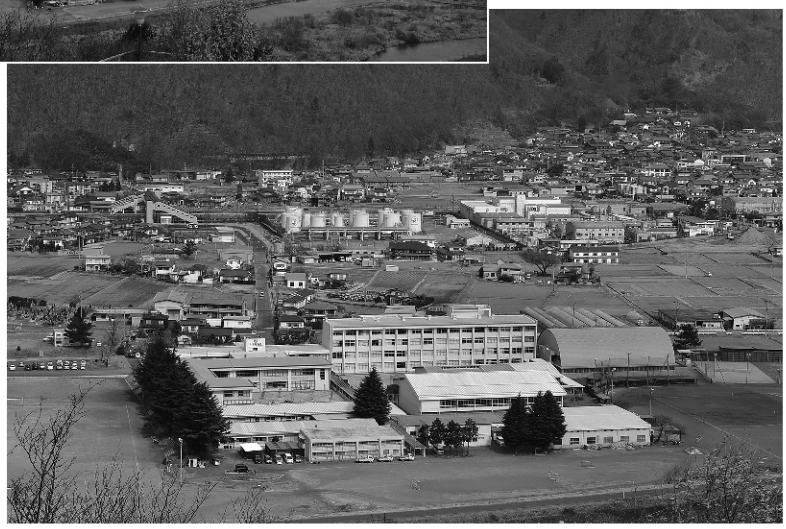
ず、一番激しい揺れの一分十秒まえに減速し始め、一人の怪我人も出さず緊急停止できたことは世界に誇る日本の技術と「言い訳や妥協のないシステム」の賜物である。なにより敬意を払うべきは、安全システムを緩みなく実施するために日々尽力していた人々の存在だ。壊滅的な被害を知るにつけ、このようなエピソードのインパクトは大きい。

生徒諸君もこういう時だからこそ学ぶこと、考えることが多いに違いない。社会情勢に萎縮することなく大いに学び、願わくは上田西高校は夢を語り合う場であってほしい。学校の魂は生徒一人ひとりの夢から成ると考えるからである。

一九八八年、本校へ初めて迎えたアメリカ人留学生アーロン・キーティング君の夢は、「アメリカ大統領になりたい！」だった。決してホラ話ではなく、真面目にどうして大統領になりたいのか熱心に語ってくれた。我が家にホームステイし、放課後は少林寺拳法の稽古にでかけ、休日は一緒に太郎山登山もした。臆することなく大統領になりたいと堂々と夢を語る十八歳の青年を育てた家庭や環境に大変感心したものだった。その後、政治家にはならなかったらしいが、昨年秋「better late than never!」といって奇妙な日本語まじりの手紙と可愛い女の赤ちゃんの写真を送ってくれた。どうやら良きお父さんになって家庭や職場で大活躍しているようだ。日本の大変な状況にせめて明るい話題をと何年かぶりに手紙を書いてくれた。

一人の留学生のエピソードしか紹介できないが、上田西高校は八〇〇人の在校生はもとより国内一万三千人の同窓生、海外及び国内在住の二五〇人超の留学生、四五〇人あまりの歴代教職員の夢や希望をエネルギーにして成長し続け、地域の方々が支えてくださった学園である。スポーツ選手になって華やかな活躍がマスコミに取り上げられる方ばかりでなく、会社経営者として、医師として、大学教授として、議員として活躍している方々もおられることは大変心強い。これからも生徒一人ひとりの夢を育み、ひとつでも多くの夢がかなうよう全力でサポートしてゆく学園でありたいと切に願っている。





サイパン修学旅行

二学年主任　関　信彦

本校の修学旅行の目的

昨年、十月十六日（日）から二十一日（金）まで、成田での前後泊を含む五泊六日の修学旅行に行ってきました。本校としては、一昨年に続き二回目のサイパン修学旅行になります。

本校の伝統的な修学旅行の目的は、『国際交流』、『平和・歴史学習』、『生徒主体の集団行動』、『異文化体験』の４つです。

『国際交流』は、前回訪問したマリアナ高校の生徒との交流会を行い、けん玉・お手玉・折り紙といった日本伝統文化の紹介、ソーラン節の発表などを通して、相互理解を深めること。また、日ごろ学んでいる英語力を生かして、英会話によるコミュニケーションを図るのが目標です。

『平和・歴史学習』は、第２次世界大戦におけるサイパンと日本の関係やそれに伴う歴史について学び、平和について考える。また、実際に戦争の遺産を見たり、戦争体験者の話を聞いたりすることで、平和を強く願う心を育てることです。

『生徒主体の集団行動』は、旅行全体を通して、生徒一人ひとりがつねに集団行動を意識し、ルーム長を中心として、まとまって行動する。また、ルーム長会で決めた自主規律をもとに上田西高生としてふさわしい行動を心がける。

『異文化体験』は、サイパンの食文化を学び、現地のスーパーマーケットを訪れることにより現地の生活感を体験する。また、学校交流を通して、同年代の考え方を共有することです。

事前学習（平和・歴史学習）

～映画「太平洋の奇跡」鑑賞、講演会、プレゼンキャラバンなど～

昨年５月の学年行事では、「太平洋の奇跡」の鑑賞をしました。

また、旅行直前には、社会科の枝村先生とＡＥＴのジョセフ先生の講演会を行いました。枝村先生にはお父さんが兵士として経験された戦地の様子や思いを。ジョセフ先生には、サイパンの地理や歴史、米国側から見た太平洋戦争についても話していただきました。

映画鑑賞と講演会に対する生徒の感想をみると、映画は映像によりイメージしやすいが、戦争の真実を感じるには不足する部分がありました。しかし、枝村先生のお父さんの話を知った生徒の中の感想には、実際の戦地での出来事であるため、多くの生徒が衝撃を受け、戦争の恐ろしさを実感していました。やはり、体験者の話に勝るものはないと思いました。ジョセフ先生の講演では、サイパンの歴史とともに、祖父の実体験を話していただいたので、戦争を日米の立場の違いから知ることができました。

プレゼンキャラバンでは、クラスのテーマに沿って、班ごとサイパンに関することを調べ、模造紙や厚紙にまとめたり、パワーポイントのスライドにしたりと工夫しながら発表しました。最優秀となった班は、視覚的にもわかりやすいプレゼンで、見ている生徒も感心していました。

事前学習では、このように、「見る・聞く・調べる・伝える」、そして、「考える。」ことで、平和や歴史についての理解を深めることができました。

主な見学地　バンザイ・クリフ、スーサイド・クリフ・・・

見学地は、サイパンの戦いで犠牲になった米国人と現地人の追悼施設である「アメリカン・メモリアル・パーク」やマッピ山の崖下、砲弾や銃弾の跡が残る日本軍最後の司令塔「ラスト・コマンド・ポスト」、近くには錆びた大砲や戦車の残骸がそのまま残っていて、激戦地を想像させる場所でした。

そして、「スーサイド・クリフ」と「バンザイ・クリフ」。追い詰められた日本兵や民間人が、米兵の説得に応じず自決した崖（岬）です。スーサイド（Suicide）は英語で自殺の意、バンザイは、多くの自決者が「天皇陛下、万歳」と叫び、投身したことからこう呼ばれるようになった崖。今回は、『バンザイ・クリフ』の前で平和への祈りや誓いを込めて平和宣言と黙祷を行いました。セレモニーの際も、ここが戦争時、民間人も含めて多くの犠牲者が出た場所であることを理解していたので、一人ひとりが真剣な表情で臨んでいました。

バンザイ・クリフ

平和セレモニー

そのほかには、南洋興発の経営者で「砂糖王」といわれた松江春次の銅像がある「シュガーキングパーク」を見学しました。この時期、サイパンは雨季の終わりでしたが、パーク内はぬかるんでいて移動が大変でした。また、クラスによっては、隣のテニアン島の原爆搭載地点や日本海軍通信指令跡、タガ遺跡なども訪れました。

学校交流（マリアナ高校訪問）・異文化体験

訪問したマリアナ高校は、「Teamwork Towards Excellence」をモットーにする公立高校で、生徒数は約1,300名。体育館いっぱいのマリアナ高校の生徒に大きな歓声で出迎えられ、感動しました。マリアナ高校は民族ダンスを、本校はルーム長会によるソーラン節を披露し大いに盛り上がりました。その後、各グループに分かれ交流をしました。剣玉やお手玉をしながら、英語によるコミュニケーションで親睦をふかめ、写真を撮り、連絡先を交換する生徒もいました。

ソーラン節

異文化体験としては、ジョーテンでのショッピングやマニャガハ島でのダイビング、パラセイリングなどを楽しみました。短い時間でしたが、南の国の日常を体験しました。

集団での行動を経験し、自主自立の心が育った。

ルーム長会メンバーは、旅行前に、自主規律の作成、セレモニーの計画、それに加え交流会で発表するソーラン節の練習など、積極的に活動しました。また、旅行中は、学校交流・平和セレモニーに向け、ミーティングを行い、各部屋の点呼・連絡など、リーダーとしての役目を果たしました。学習係長会も文化祭でサイパンに関する発表をしました。

事前準備のころから、リーダーとなった集団に、自主自立の心が目立ち始め、旅行中のルーム長会メンバーの活動を見ると、一般の生徒にも集団で過ごすとき、規律を守らなければならない事が伝わり、徐々に変化が見られました。

また、時間を守ることに関していえば、旅行の最初は時間に遅れる生徒もいたが、後半は、先を見て5分前、10分前の行動ができていたように思います。

修学旅行での集団での活動を経て、帰国後すぐにあったクラスマッチでは、各クラスとも、自主・自立・協調性が増したように感じました。修学旅行を機に集団として、大きく成長し、今後が楽しみな集団になってもらえたらと思っています。

マニャガハ島

初担任を終えて

3年1組担任　阿部薫之

～担任としての船出～

初めての担任として迎えた入学式の日のことは今でもはっきりと覚えている。初担任ということで、引率の手順や配布物など前日から用意や確認を行い、万全の準備をしてその日を迎えた。入学式の式典が終わり、最初のホームルーム、生徒の緊張を解き、これからの高校生活に対して希望を与える、そんな大事な場面で、何が言いたいのかよく分からない話をしていたということを…。担任としての船出はそんな不甲斐ないものであった。

～担任をするにあたって～

担任をするにあたってこれだけはないようにしようと心がけたことがある。それは担任が私でなければ学校を辞めることはなかった。そんな生徒を出さないようにしようということである。そのために気を付けたことは二つある。一つは生徒の変化を見逃さないようにすることである。ＳＨＲでうつむいていたり、表情が暗く感じられたりする生徒に対しては意識して声をかけるようにした。大抵は取り越し苦労に終わることが多かったが、時には悩みを抱えている

生徒の相談に乗ってあげられることもあった。そしてもう一つは、必要な生徒とはじっくりと話をすることである。休みがちな生徒や行動が落ち着かない生徒など、理由の有無、問題の大小に関係なく、いずれの場合も結論を急がずにじっくりと話をし、時に保護者の力を借りて、解決の方向を探った。

～自問自答の日々～

私の担任としての三年間は自問自答の日々であった。私は初の担任ということで生徒との接し方はもちろん、ホームルームの進め方、いろいろな場面における生徒指導など、すべてが手探りですべてが挑戦であった。他のクラスの担任団はみな経験豊富なベテランの先生方である。厳しくするところは厳しくし、緩めるべきところは緩める。その一つ一つが参考になり、お手本とさせてもらった。そんなベテランの先生方に比べ自分の生徒に対する接し方は本当に良いのか？口には出さなかったが、そのように思わない日はなかった。もちろん、悩んでばかりではしょうがないので、自問自答を続けながらも生徒とのコミュニケーションを取ることや、生徒のことを思う気持ちだけは負けないようにしようと心がけて行動する毎日であった。

～担任としての喜び～

気を抜くことができない日々であったが、喜びを感じさせてくれる日も少なくなかった。教師としての喜びを感じるのは、生徒の成長をみることができたときだが、その成長を特に感じたのは修学旅行と文化祭である。修学旅行では学校交流や平和講義に臨む姿勢、規律ある行動、クラスで協力する姿勢どれをとってもすばらしかった。正直、出発前は色々と心配していたが、そんな心配は全く必要なかった。修学旅行を機にクラスの雰囲気や一人一人の行動は確実に変わった。文化祭は紆余曲折あり、衝突あり、三十五人の喜怒哀楽が詰まった発表であった。本番までの道のりは順風満帆なものではなかったが、最後は一致団結して、生徒の生徒による生徒のための文化祭を作り上げた。普通の人には単なるステージ発表だが、本番までの過程を知る私の目には違ったかたちで写り、そのクラスという集団の成長に喜びを感じずにはいられなかった。

～最後に～

ドラマや映画などに「先生だから～できた。」というものをよく耳にするが、私の場合はまるっきり逆で、「1組の生徒だから、私は担任を務めることができた。」というのが本当のところである。私は運が良く、生徒に恵まれたというのは正直な気持ちである。初めての担任ということで、いろいろと迷惑をかけた場面もあったと思うが、喜びと感動を与えてくれた1組の生徒に感謝したい。

また、未熟な担任ではありましたが、多くの場面で支えていただいた保護者の皆様、先生方本当にありがとうございました。

東日本大震災ボランティア隊の教育的成果と可能性

D-プロジェクト部顧問・ＪＲＣ部顧問

1、はじめに

2011年3月11日に東日本を襲った日本における史上最大規模の地震と津波の被害に対し、日本のみならず世界各国の人々が被災者のために立ち上がった。本校も例外ではなく、震災後いち早く生徒会が募金活動を始め、同時に教員も率先して被災地にボランティアに向かった。その後も、「被災地の為に何か力になりたい」という生徒たちの声が学校のあちこちで聞こえていた。そのような生徒たちの思いに対して、教育現場において教師が果たすべき役割とは何か。その問いに向き合った時、それは生徒たちが「何か力になりたい」という思いを行動に移す環境を作り出すことであり、それを通して生徒たち自身に何かを感じ取り、学び取ってもらうことであると考え、東日本大震災ボランティア隊を結成する運びとなった。ボランティアを通して生徒たちに学び取ってほしい「何か」については、敢えてそれを生徒たちに対して最初から提示することはしなかった。経験からの学びは、それぞれが実感するものであり、生徒自身から沸き起こるものを尊重したいと考えたからだ。ここでは、ボランティアの経験を通しての生徒たちの姿や感想から見受けられた教育的な成果とその可能性をまとめていくことにしたい。

2、ボランティアの概要

日　程／2011年8月1日から4日（ボランティア活動は2日と3日）
ボランティア先／岩手県大槌町（大槌町ボランティアセンター仲介）
宿　泊／岩手県釜石市　陸中海岸グランドホテル別館
参加人数／生徒43名　教員4名（小林・澁澤・村山・森下）合計　47名
移　動／バス・レンタカー
活動内容／「菜の花プロジェクト」

震災後、元トラック運転手であった金山文造さん（62）が、氾濫した大槌川の河川敷に菜の花を植えて希望の地にしようということで始まったプロジェクト。菜の花は、放射能を吸い取る力があることや、その色が希望や幸せを象徴することから、その花が選ばれた。河川敷の瓦礫や石や雑草を取り除くことが今回本校のボランティア隊が携わったボランティア活動である。ボランティアの翌月の9月には、地元の子供たちが菜の花の種を植えた。

活動の流れ／

8月1日（月）　移動・宿泊先の支配人である菅原さんから津波被害の体験をお聞きする

8月2日（火）　ボランティア活動（①大槌町ボランティアセンターに義捐金とアートフラッグ※を渡す　②「菜の花プロジェクト」に参加し、大槌河川敷の石拾い、ゴミ拾い、草取り。菜の花プロジェクトの発起人である金山さんから津波被害の体験をお聞きする。）

8月3日（水）　ボランティア活動（大槌河川敷の石拾い、ゴミ拾い、草取り）

※義捐金は、文化祭で生徒会や各クラスが行った募金活動で集まった43,762円。アートフラッグは、本校美術部と「上田市おさなご広場」による共同制作の復興応援フラッグと，1年1組作成の応援フラッグ。

3、教育的成果と可能性

ボランティアを終えて生徒たちが書いた感想文やその後の姿から

見受けられた教育的成果と言えるものとして、次のことが挙げられる。

①他のボランティア活動への積極的参加

数年前から、ハローアルソンという団体が主催するフィリピン医療ボランティアに本校から毎年数名が参加しているが、東日本大震災ボランティア隊としてボランティアに携わった生徒のうち4名がフィリピン医療ボランティアにいくことを決めた。

また、2011年11月に行われた、イラク医療支援ボランティア団体が主催するチョコ募金の袋詰めボランティアにも積極的な参加が見られた。その際に袋詰めしたチョコレートは、福島県の相馬市長に渡され、同市の子供たちに無料で配られた。

さらに、3学年のクラスが、2012年の2月に宮城県へボランティアに行くことを計画。このボランティアメンバーには、8月にボランティアに行った生徒も数人含まれているが、それ以外はその生徒たちに刺激を受け、行くことを決めている。東日本大震災ボランティアでの経験が、他のボランティア活動や他の被災地でのボランティアにつながっていることが分かる。

②社会とのつながり、社会の一員としての意識の芽生え

学校教育においてボランティアを経験することの意義の一つは、社会とのつながりとともに、社会に生きる市民としての意識を高めるということが挙げられる。それは、自分たちが生きている環境が、他の地域や人とつながっており、互いに影響し合っているということを理解するとともに、他の地域や人々に思いを馳せ、今自分にできることを考えるといった思いやりや想像力を育むことにもつながる。生徒たちの感想文から、そのような意識の芽生えが伺えるものをここで紹介したい。

（1年男子）「僕はこのボランティアを通して震災の脅威、悲しみ、復興、そして人と人との繋がりを実感出来ました、この経験は僕の人生に必ず活かせると思います。」

（3年女子）「今回東北のボランティアに行って、今まで知らなかった光景をみたり話を聞いてきました。菅原さんが言っていたように、この事をたくさんの人に伝えなければならないと思います。私はボランティアに行ってから、いつもより東北のニュースを気にして観るようになったり、節電や節水を気にするようになりました。人ごとのように思っていられなくなりました。」

（1年女子）「被災地にいくまで、特に被災をうけたところの事は普段あまり考えていませんでしたが、色々見て聞いて活動してきてより普段被災地のことを考えるようになりました。」

（3年女子）「この貴重な体験を通して、私は人と人とのつながりってすごいなぁって感じました。最終日に秋田県のボランティアの方に名物の〈ババヘラアイス〉をいただきました。普段なら行き合わない私たちがつながりました。宿舎の支配人さんや大槌町の金山さんとも関わりがもてました。ボランティアに行くことが役にたつだけではなく、大きなつながりも築くのです。そしてそのつながりが大き

くなって日本が一つになり、復興へ近づくのかなって感じました。たくさんの笑顔にも出会えました。この教えを今度は自分が周りに伝えたいです。友達が悩んでいる時とか役にたてたらいいなぁって!!人とのつながりを増やしていきたいし大切にしたいです。」

また、可能性としては、今後他の地域で災害などが起きた時、また災害に限らずとも何か問題が生じた時に、生徒たちが今回の経験を活かし、周りと協力しながら率先して考え行動していけるのではないかということだ。

菜の花プロジェクトを始めた金山さんがボランティア隊に話してくださったことの中に、次のような言葉があった。「何か事が生じたときに、布団をかぶって寝ている人と、立ち上がる人がいる。」生徒たちがこれからの人生を生きていく上で困難にぶつかった際に、めげることなく「立ち上がる人」になるきっかけ、その素質を今回のボランティアで身につけることができていたらよいと考える。どんな困難においても立ち上がる強さ、その素晴らしさを、今回のボランティアで出会った被災者の方々から生徒たちが学び、それを次に活かしていくことを可能性として挙げたい。

生徒の感想文から、その可能性を感じさせるものを紹介する。

（2年女子）「このボランティアに自主参加という形で参加させてきただき多くの人の思いや考えにふれて、たくさんのことを感じさせてもらいました。それに通じてどんなときでも前を向いて頑張る姿勢、逃げない姿勢から、私は自分の生き方に疑問を持ちました。そしてこれからはその疑問を解決できるようにしてきたいです。」

（2年女子）「大槌町の帰り道、いろいろな風景を見ていましたが、今は静かな海だったけど自然の力は本当に怖いと思いました。しかし、それを乗り越えられる人や、頑張っている人は大好きです。」

（2年女子）「私はボランティアに協力できて良かった。これからも支援し続けたいし、身近なところで困っている人がいたら、手をさしだせる人間になりたい。」

（2年女子）「震災で現実から逃げたくて家に閉じこもってしまう方もいると聞きました。そんな中で自分から菜の花を植えようと考え、それを実行に移すことは誰にでもできることではないと思うので本当にすごいと思ったし、私も見習いたいと本気で思いました。」

4、おわりに

教育現場として、社会や自然の流れに応じてどのような教育を繰り広げるかについて、私たち上田西高校の教員は常に実践的に学べる環境を作り出すという姿勢を大切にしていきたいと考えている。本校が、いち早くボランティア隊を組めたことは西高の教育に根差したものであり、今後ともそのような姿勢を貫いていきたい。ここで挙げた教育的成果と可能性は現段階のものであり、個々の生徒はそれぞれがもっと多くのことを学びとり、それを次に活かす知恵として蓄えているに違いない。上田西高校として、生徒たちにきっかけを与え、それをもとに生徒が自ら発見し、学び、分かち合い、それを自らの力としていく教育を今後とも行っていきたいと考えている。また、今回の東日本大震災ボランティア隊の行動が被災地の復興の一助になり得たこと、そしてそれを通して生徒たちがこれからを生きる良い学びを得られたことを願うと共に、今後の生徒たちの活躍にも期待したい。

（文責　村山　美耶子）

女子バスケ部との4年間

女子バスケットボール部　顧問　阿部薫之

～赴任当初の女子バスケ部～

私が上田西高校に赴任し、女子バスケットボール部の顧問となって4年が過ぎようとしている。赴任当初の女子バスケ部は私のイメージしていた部活動とはかけ離れたものであった。人数も少なく団体としての練習はできずに、練習といえばシュート練習を中心とする個人練習のみ。生徒会活動などがあるときはその個人練習すらままならない状態であった。大会へは他校との合同チームでの出場、人数の少なさから高いモチベーションを保てず、何とか部活が存続しているという状態であった。

～近年の活動～

2年目に7名の部員が入部したのが転機となって、しっかりとした活動が行えるようになってからは、公式戦1勝、県大会出場を目標に少数精鋭のチームを目指して日々努力を続けてきた。初めのうちは、善戦はしても勝てそうにない試合展開の大会が続いたが、気持ちを折らさずに活動を続け、今年度の東信総体でもう一歩で勝てそうなところまで持ち込んだ。しかし、結果は無念の惜敗。勝つことの難しさを知る大会となった。チームの礎を築いた代の目標は達成されなかったが、その意思は確実に後輩に受け継がれた。先輩の姿を見て、勝つことの難しさを知った後輩たちは更に厳しい練習にも耐え、そして今年度の東信新人大会において、目標であった公式戦1勝、県大会出場を果たし、その県大会においても1勝し県ベスト16という結果を残すことができた。

～今後の目標～

今後は、東信大会優勝、県大会ベスト8を目標として、日々の練習から目的意識を持ち、目標が達成できるよう粘り強く指導していきたい。また、競技の目標以上に、人として成長できる部活動を目指し、礼節はもちろん、気遣いや諦めない人間性など、人として成長し、地域の人々からも応援して頂ける伝統を作り上げていくことが最大の目標である。どちらの目標も、簡単な事ではないが、選手と一緒になって努力をしていきたい。

最後に女子バスケットボール部の活動を応援して頂いている保護者の皆様ありがとうございます。そして、これからもご支援、ご声援をよろしくお願いいたします。

西高ホームページの取り組み

広報係　枝村健兒

はじめに

高校一年の文化祭で取り組んだのは演劇。前日遅くまで取り組んで、台本にあった台詞をステージで読み上げる。と、校長先生の隣でニコニコしながら視線を送る人がいる。しかも手まで振って…。

母だ。高校の文化祭がいつで、その時に自分が何時から始まる演劇で何を演じるなど、いったい何が悲しくて家族に話さなければならないのだ！　学校でどんなことがあって、どんな友達がいて、どんな高校生活を送っているなどということをどうして事細かに話す必要があろう！

自分のことなどはペラペラとしゃべらないのがごく普通の高校生ではないのか？　ただ自分が他の人とちょっとばかり違っていたのは、母が茶道と華道の先生で、同じ高校に通う決して少なくない生徒（ときに同級生）が我が家にお茶やお華を習いに通っていたということだった。とにかく家に来る女の子がみんなおしゃべりで、同級生も先輩も後輩も、本人のいないことをいいことにあることないこと（多分、全部あることだったと思う）を全て報告してくれていたのだ。

本校には、一眼レフのカメラを持っている先生がとても多いとよく言われる。

「せんせ、カメラ好きだね～！」

いや、カメラが好きなんじゃなくて、生徒が好きなんだ。いや、写真が好きなんじゃなくて西高が好きなんだ。

高校生活の記憶と経験は一生のものだ。先生方だって、きっと最高の高校生活を送ったから高校の先生であることを一生の職業に選んだのだと思う。お父さんお母さんだって、あの頃の記憶はいつまでも新鮮で色あせずに、大事に胸のうちにしまっているに違いないのだ。そんな高校の日々を、ＨＰ（ホームページ）という媒体を使って保護者・学校・生徒が共有することは至極当然なことなのではあるまいか。いろんな理屈を付ける前に、まず生徒達のキラキラと輝いている日常を伝えることは高校で生徒と間近に接するものの義務である。「西高Ｌｉｖｅ」はそんなスタンスで日々更新している。

先生も生徒も保護者も地域も、みんなで盛り上がりたい

全国大会で優勝したとか、いろんな行事で活躍したとか、あるいは何かのコンクールで表彰されたとか、素晴らしい才能の持ち主が西高にはいっぱい！

ある生徒の活躍が新聞紙面を埋めたとき、その記事を見ながら「私達のクラスにこんなすごい人がいるなんて、私達も鼻が高いよね！」と満面の笑みで感想を述べてくれた人がいた。友達の頑張りは周囲の人にも勇気も希望も与えてくれる。学校社会そのものが団体戦であるならば、そういった一つひとつのできごとを知ることだけでも総体的に生徒の能力を高めてくれる力になっていることに疑いを持つ人はいないはずだ。あいつも頑張っている、だから自分も頑張れるのだ。ＨＰが、そんな「チーム西高」の潤滑油や推進力の一助となるならばこんなに素敵なことはない。生徒のキラキラをもっともっとみんなと共有すれば、もっともっと生徒はキラキラ輝くに違いないのだ。

昔、生徒も保護者も地域もみんな一つだった。そして、その間を取り持つのが学校だった。情報を発信する場所が学校で、情報が集まる場所が学校であった。そんな学校から、地域も社会も遠のいたと言われて久しい。学校はいつの間にか閉鎖された場所と言われるようになり、高校生同士にしか通用しない独特な高校生文化は地域社会と断絶した。

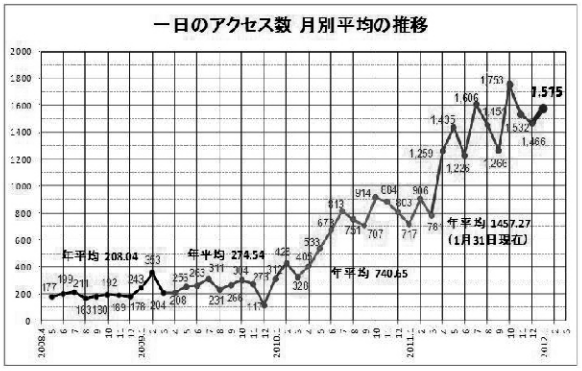
でも、高校生をよく知る大人は高校生の豊かな感性に感動し、親は子の優しさに救われている。子は親に感謝していてもその言葉を胸にしまってなかなか言い出せずにいるのだ。それもこれもをＨＰという広場に集まって楽しく語り合い理解しあう。ＨＰがそんな場所になったらどんなに素敵なことだろう！

なんたってエボリューション

「昨日はどこにいたの？」
「そんな昔のことは忘れた」
「明日はどこにいるの？」
「そんな先のことは分からない」

と、これは映画「カサブランカ」の有名な台詞である。

西高の今をどうやって楽しく伝えられるか、これが現在の嬉しい悩み。ＨＰを開いてみたときに昨日と同じようなものでしかないなら、わざわざ西高のＨＰにアクセスしようとは思わないだろう。「今日はどうなっているだろう？」、「今をどう伝えているのか」というちょっとばかりのドキドキ感を読者も作者も楽しみたい。



そんなＨＰを、ブログ担当とシステム担当は神の技を持つ若林先生の二人で主に運営している。二人で「あでもない、こうでもない。」と相談しあって早二年となる。トップ画面がちょっと動くようになったり、ツイッターを導入したり、ＹｏｕＴｕｂｅで動画をＵＰしてみたり、作る側が飽きてはどうしようもないので、日々の進化はちょっと止まりそうにない。（もちろん、新しい技術を使うということは大変なこと。しっかり検証もしながら細心の注意を払って使っている。）

アクセス数は、七月・十月・二月に山があって、これはそれぞれ「西高祭」・「修学旅行」・「本校入試」が理由である。その逆に八月・一二月に谷となるが、これらは長期休みや行事などの関係と思われる。大きな行事がなかったり、学校が休業だったりすればアクセスしないのは当たり前の話。だとすれば、その谷の部分にいろんな特集を組んでみたり、先生・生徒の楽しい情報で紙面を満たすことができるなら・・・。気がついたら色んな企画が生まれていた。

さあ、進化は止まらない。新年度の大幅改定も待っている。これからも西高のＨＰ、ぜひますますの応援を！

進路指導の取り組み

～キャリア教育と進路実績の分析～

進路指導係主任　森　下　　暁

1．キャリア教育の取り組み

昨今の就職環境の悪化（離職率の増加、就職率の低下、非正規雇用の増加）、また、昨年おきた東日本大震災の社会への影響，これらの社会情勢は生徒たちの将来の大きな不安となっている。このような社会情勢において、従来以上に、自分の職業観を育成し、自分がどの様に働きどの様にこの社会で生きていくべきかというビジョンを持つことが生徒にとって大切になってきている。この情勢を受け、上田西高校では生徒たちのより一層のキャリア意識の育成に努めてきた。以下に具体的な取り組みを挙げたい。

〈自分をみつめるために～R―CAPの活用（1・2年／通年）〉

R―CAPとは、自分の適正をもとに将来の進路について考えるプログラムである。職業・学問の適合度ランキングや仕事・学問カタログを見ながら、仕事や学問への理解を深め、将来なりたい職業、その職業に就くために学ぶ学問、進学先の学部・学科やその後のキャリアを描くためのものである。

1年生は適性検査をもとに「職業調べ」や「高校時代に取り組むこと」「学問適性から文理選択を考える」を実施。自分の将来像や、その目的を実現するための具体的な方法を学習した。

2年生は昨年度からのひき続きの実施で、「仕事をもとにした学問調べ」「学部学科調べ」を行った。生徒たちは、具体的な方向性を決定していく手がかりを得ることができ、3年生にむけて、さらに進路実現に向けて目標が明確になった。その明確な目標をもとに、3学期には「自己紹介履歴書の作成」「志願理由書の作成」の実施を予定している。

〈具体的な進路目標決定のために～キャリアガイダンス～〉（1年／10月、2年／5月、3年／5月）

1年生は17の業種について、関連の大学・短大・専門学校より講師を招き、職業ガイダンスを実施した。それまで漠然と捉えていた「職業に就く」ということに対して、具体的なイメージがもてた。2年生は大学・短大・専門学校の講師を招き、実際に進学した時の様子をじかに触れるということで、模擬授業を実施。自分が目指すところが本当に自分にとって必要としている学習ができるのかといった具体的な目標設定のためのいい経験となった。3年生は、約50の大学・短大・専門学校の講師から、それぞれの学校の特色や学べることを学習し、具体的な受験校の決定に役立てた。

〈たしかな職業観の育成のために～社会人とのふれあい〉（1年／先輩の声　2年／インターンシップ）

本校では、職業観の育成を目指し、社会人とのかかわりを作り出すことを本年度の一つの目標とした。1年生では、3月に「先輩の声～社会人講話」を実施しようと計画を進めている。これは、上田西高校の卒業生で、現在社会人として頑張っている先輩を招

き、現在の労働現場について話をしてもらうというものである。この企画は、自分たちの将来をより具体的に想像する力を養成し、目標設定の一つの材料となることを目的としている。2年生では就職希望者を中心に2月23日・24日の二日間でインターンシップを実施する。これは、最も早く社会に出る生徒に、社会の現場にスムーズに入っていけるような経験・準備をさせることを目的としている。

また、この他にも、R―CAPなどを利用しながら、1・2年生には、職業観を育むための取り組みを数多く実施している。

2. 進学指導の取り組み

Ⅱ類を中心に本校では、高い目標を持ち国公立大学および私立難関大学を目指し学ぶ生徒たちに即し、カリキュラム及び諸行事に工夫がなされている。

Ⅱ類の7時限目の「演習」授業や、代々木ゼミナールの衛星放送によるサテライト授業（英語・数学）。春期補習・夏期補習・勉強合宿・土曜補習などは、基本的にⅡ類は必須とし、Ⅰ類でも希望制で実施している。これらの行事は、確かな力と自学自習の態度を身につけさせている。

また、学習空間の確保という面では、日曜・祝日にも自分で学習を進めたい生徒のために学習室を終日解放している。放課後もスタディホールを学習空間として解放している。机が一人ずつブース分けされているため、集中して学習に取り組むことができるとして、毎日多くの生徒に利用されている。

3年生においては自分の目標を達成するためのより実践的な進学指導が行われている。年間13回におよぶ模擬試験は入試本番を意識し、全国における自分の力を知り、実力養成のきっかけとしている。また、この活動は、試験の習慣化も目的としており、センター試験の感想では「模試と同じように受けられたので緊張しなかった」といった声も聞かれた。センター試験直前の11月末からは、受験に向けて「特別編成授業」が行われ、集中して受験科目の学習に専念することができた。

3. 本年度の実績

本校が、Ⅰ・Ⅱ類体制になって今年で9年目である。その間さまざまな試みが実践され、また毎年改良されながら続けられている。その中で、着実に生徒の力も向上してきている。例えば、国公立大学への合格者数も年々増加しており、今年もすでに7名の生徒が合格している。また、難関私大にも多くの生徒が合格していくようになってきている。

また本校では、就職を選択する生徒に対しても、手厚い指導を心がけている。本年度は、この不況の中昨年度より多い17名の内定が決まっている。そのうち2名は公務員試験に合格している。事業所見学の際のマナー指導など、ひとつひとつのことを大切にさせ、その姿勢が近隣企業から強い信頼を受ける要因となっている。

上田西高校では、一人一人の進路を大切にし、すべての生徒がよりよい社会人になるように、進路指導を実践している。

平成 23 年度　上田西高校合格実績一覧

四年制大学［国立］

大学名	人数
群馬大学	1
信州大学	2
合　計	3

四年制大学［公立］

大学名	人数
都留文科大学	2
長野県看護大学	2
合　計	4

四年制大学［私立］

大学名	人数
朝日大学	1
亜細亜大学	1
桜美林大学	1
大妻女子大学	1
神奈川大学	4
金沢工業大学	1
鎌倉女子大学	1
関西医療大学	1
関西外国語大学	1
関東学院大学	1
杏林大学	4
群馬パース大学	1
国際武道大学	1
国士舘大学	2
埼玉工業大学	2
相模女子大学	1
佐久大学	2
産業能率大学	1
静岡産業大学	1
芝浦工業大学	1
城西国際大学	1
城西大学	2
上武大学	3
鈴鹿医療科学大学	1
駿河台大学	4
専修大学	1
洗足学園大学	1
大東文化大学	4
玉川大学	2
千葉経済大学	1
千葉商科大学	3
中京学院大学	1
中京大学	1
帝京平成大学	2
東海学園大学	3
東京家政大学	1
東京工芸大学	2
東京電機大学	1
獨協大学	1
長野大学	3
名古屋学院大学	2
新潟医療福祉大学	1
二松学舎大学	1
日本大学	2
日本福祉大学	2
白鴎大学	1
花園大学	1
文化学園大学	3
文教大学	2
松本大学	3
目白大学	1
山梨英和大学	1
山梨学院大学	4
立正大学	1
流通経済大学	1
麗澤大学	1
合　計	94

短期大学［公立］

短期大学名	人数
大月市立短期大学	1
長野県短期大学	2
合　計	3

短期大学［私立］

短期大学名	人数
飯田女子短期大学	1
上田女子短期大学	2
大妻女子短期大学	1
駒沢女子短期大学	1
埼玉女子短期大学	2
清泉女学院短期	3
高山自動車短期大学	1
合　計	11

専門学校

学校名	人数
上田情報ビジネス専門学校	4
エコール辻東京	1
太田医療技術専門学校	5
カレッジオブキャリア	1
群馬自動車大学校	3
国際文化理容美容専門学校	2
小諸看護専門学校	1
埼玉自動車専門学校	1
埼玉福祉専門学校	1
佐久病院附属看護学校	1
信州医療福祉専門学校	2
東京観光専門学校	1
東京コミュニケーションアート専門学校	1
東京スクールオブミュージック専門学校	1
長野社会福祉専門学校	1
長野美術専門学校	1
長野平青学園	1
長野理容美容専門学校	2
日本外国語専門学校	1
日本ホテルスクール	1
ベルエポック美容専門学校	1
松本情報工科専門学校	1
ヤマザキ動物専門学校	1
横浜理美容専門学校	1
ワタナベエンターテイメントスクールカレッジ	1
合　計	37

就職

公務員	人数
佐久広域連合消防	1
長野県警	1
合　計	2

一般企業　企業名	人数
(株) アートランド	1
(株) 乾光精機製作所	1
黒澤組	1
コトヒラ工業	1
五明株式会社	1
サンタ軽金属	1
シガ美容室	1
新光電気	1
信州玉姫殿	1
長野計器株式会社	1
その他	2
合　計	16

編集後記

本校は昨年度創立50周年を迎え、今年度は次の50年に向けて新たなスタートをしたばかりです。そんな中、昨年3月に東日本大震災がありました。本校は授業中で長い時間揺れを感じました。夏には岩手県大槌町でボランティア活動をしました。その活動は西高教育に大きな影響を与えてくれました。

今回は「新生」を柱に先生方に執筆いただきました。来年度から教育課程が数学、理科で先行実施、また再来年度は全面改訂されます。それと同時に新たな西高創造のため準備、検討をしているところです。是非ご一読頂きご助言をいただければ幸いです。

平成24年3月
上田西高の教育　第56号
発行　上田西高等学校
上田市下塩尻八六八
http://www/uedanishied.jp
TEL 0268-22-0412